

## ■ プロジェクト概要

- | 企画名称 | IMAGINATIVE GARDENS / 創造された庭
- | 実施場所 | 都立代々木公園中央広場  
(水景施設改修工事現場)
- | 規模 | 高さ3m × 幅約170m
- | 公開期間 | 令和7年3月から令和8年3月まで (予定)
- | 企画・制作 | TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCH
- | アーティスト | 梅沢 英樹、谷口 暁彦、瀨本 奏
- | ディレクター | 小山 泰介

## ■ アート掲出場所



### 作品名・アーティスト

### 作品解説・アーティストコメント

#### 『YOYOGI BOTANICAL PATTERNS』

梅沢 英樹 (うめざわ ひでき)

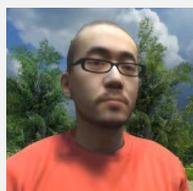


植物学者・牧野富太郎博士が、100年以上前に渋谷・代々木で採集・収集した植物標本をモチーフに用いました。時代を超えて自然や植物を観察・再発見することから、人と自然の関係性を見つめ直す手がかりとなればと思っています。

かつて牧野博士が植物を眼差し、発見したように、自分の周りの自然や環境をあらためて眺めてみると、小さな驚きがあるかもしれません。事物や現象を観察することの面白さを、再発見してもらえたら幸いです。

#### 『HYPER GARDENING #2』

谷口 暁彦 (たにくち あきひこ)



ゲームエンジンの中で3Dデータの植物を配置し、超望遠のカメラで平面的に撮影しました。XRやヴァーチャル空間と現実の狭間にある新たなリアリティのあり方と、バーチャルな植物の存在との関係を写し取ろうとしました。

普段ビデオゲームの中で見かける、データでできたバーチャルな植物を、このように大きく印刷して見ることは新鮮なんじゃないかなと思います。こうした植物の、独特の質感の魅力を色々と見つけてもらえたらと思います。

#### 『now here』

瀨本 奏 (はまもと かなで)



時代と共に移りゆく代々木公園の姿を捉えた写真と、この地域一帯の航空写真を使い、今も変わらずに降り注ぐ太陽の光で青写真に焼きました。変わるものと変わらないものを、作品を通じて感じていただきたいです。

また、今回のプロジェクトに参加するにあたって土地の歴史を調べたことで、ふだん何気なく歩いていた道の見え方や歩き方がすこし変わったように感じます。この広場にいらした皆さんにも、今いる場所の過去や、未来の景色に思いを馳せていただけたら嬉しいです。

### ディレクターコメント

小山 泰介 (こやま たいすけ)

TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCHは2020年から有楽町エリアで仮囲いアート企画を進めてきました。そこで大切にしてきたのは、アーティストがその場をリサーチし、考え、感じたことが表現となって街に還元されること、そして、その作品が街に出現することによって、街の人びとの感性を刺激したり、新しい視点や発見をもたらすきっかけとなることでした。TOKYO CITY CANVASによって、東京中の仮囲いがアーティストと街や人びとを繋げるきっかけとなり、都市の景観に変化をもたらす、新たな視点や魅力が生まれていくことを願っています。

TOKYO CITY CANVASでは、都有施設の工事現場を活用したアートプロジェクトや民間事業者への助成金を通じて、東京にアートの景色を広げています。詳細は[HP](#)をご覧ください。

